

経営比較分析表（令和5年度決算）

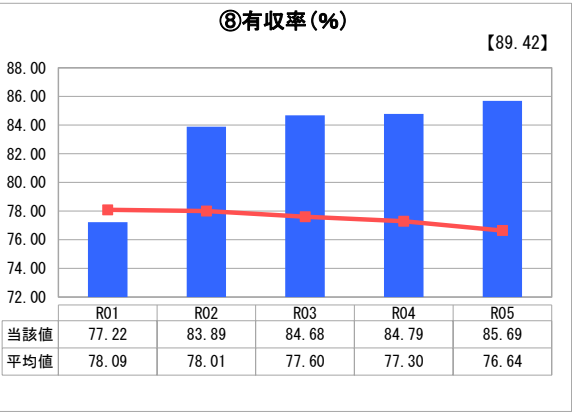
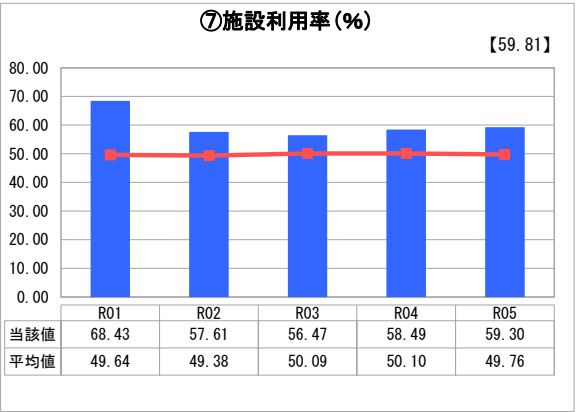
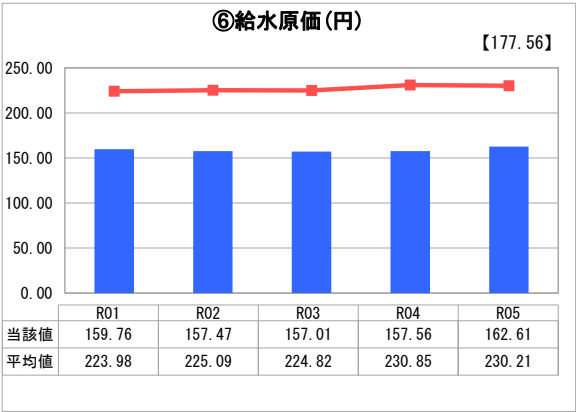
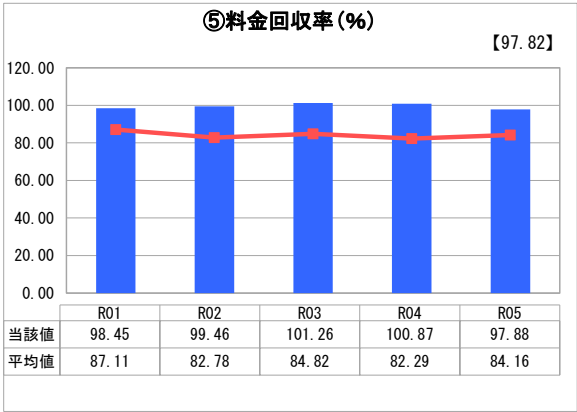
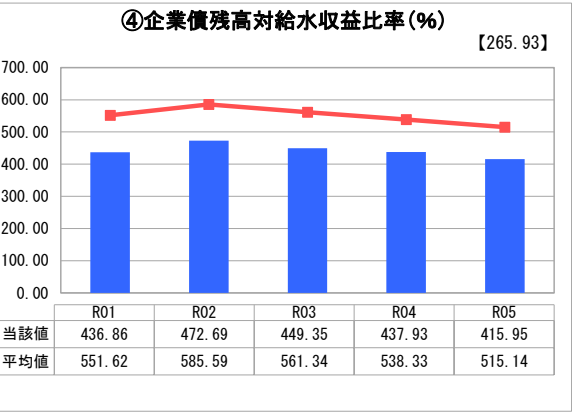
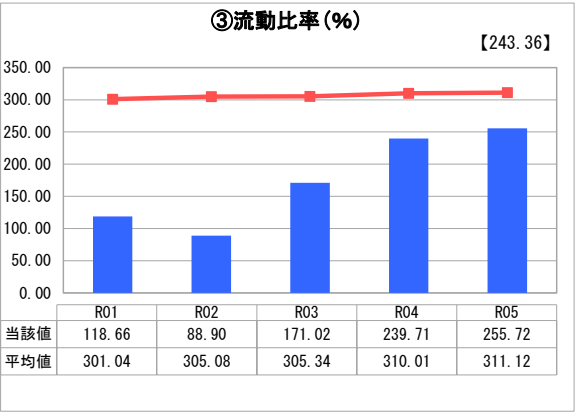
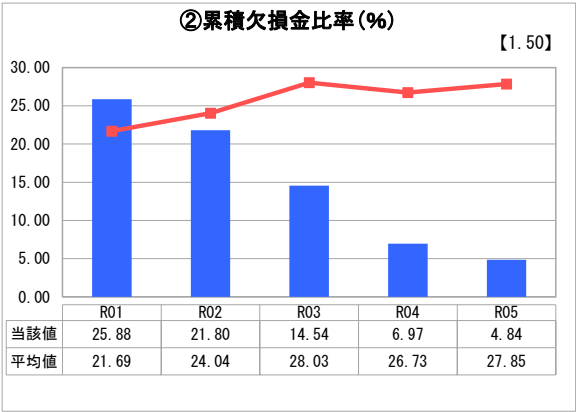
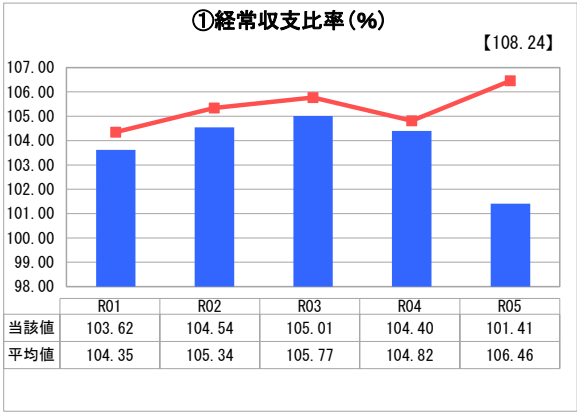
長野県 阿智村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.82	98.25	2,937	

人口（人）	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,989	123.07	48.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,880	19.00	309.47

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



1. 経営の健全性・効率性について

阿智村水道事業は、平成29年度に7ヶ所の簡易水道事業と1ヶ所の飲料水供給施設を統合し、阿智村水道事業となり運営しています。

①経常収支比率は、ここ数年、黒字経営ができていますが、今後も収支の推移に注意し健全な経営を目指します。

②累積欠損金比率は、減少はしているものの、累積欠損金が発生している以上、経営は健全とは言えないため料金改定等検討し、早急な対応が求められます。

③流動比率は、類似団体の平均値を下回っていますが、200%以上のため短期債務に対する支払能力は良好といえます。

④企業債残高対給水収益比率、企業債を財源とする施設改修が少なく、償還額の減少によると考えられます。投資規模の適正化・将来の負担軽減のためにも計画的かつ効率よく施設改修等を行う必要があると考えます。

⑤料金回収率は、100%を下回り、給水にかかる費用が給水収益以外で賄われていることを意味します。適正な料金収益を求めるため料金改定を進めます。

⑥給水原価は、類似団体平均値と比較して低い水準を示しているが、供給単価の見直しとともに、引き続きダウンサイジングや経費節減に努めていきます。

⑦施設利用率は、給水人口の減少傾向にあることを踏まえると今後の水需要によって施設規模・施設統合を検討する必要があると考えられます。

⑧有収率は、近年の更新工事や調査により向上して

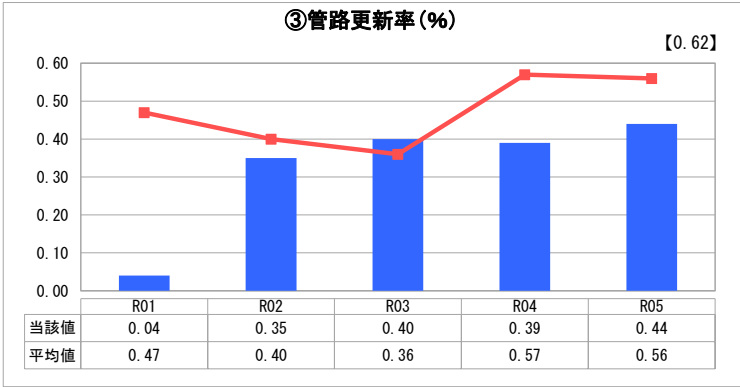
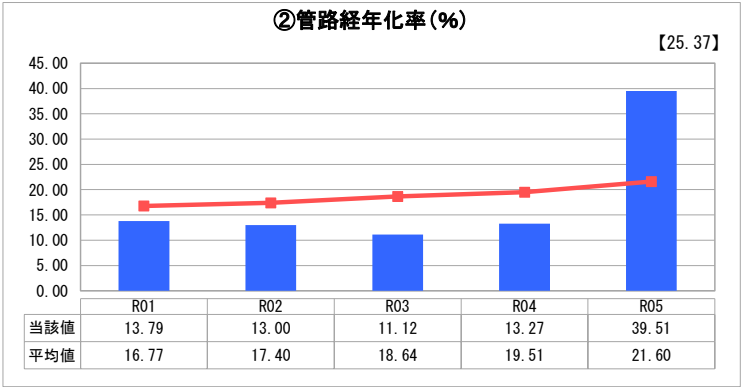
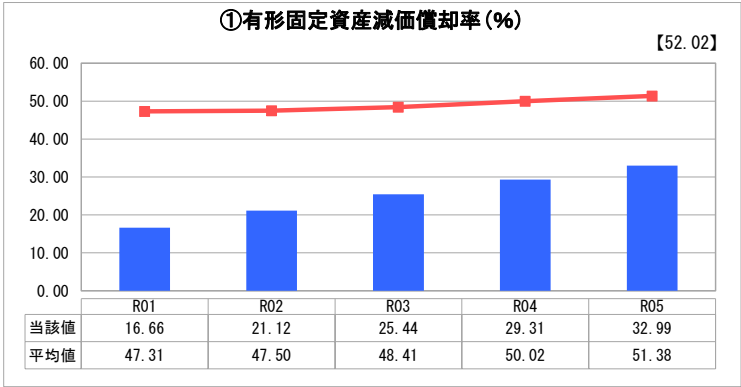
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、近年比率が上昇しており、老朽化資産が、年々増加しているものと考えられます。今後、更新計画に基づく着実な施設・管路等の更新が望まれる。

②管路経年化率は、今回初めて平均値を更新した。これは管路更新が遅延していることを意味している。更新計画に沿って、今以上に施設改修や管路更新に取り組む必要があると考えます。

③管路更新率は類似団体平均値、全国平均値より下回っています。これは、当村の管路更新の更新スピードが遅い状態であり、アセットマネジメントや経営戦略を基に立てた更新計画に沿って、今以上に施設改修や管路更新に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況



全体総括

現在の水道事業の経営状況は依然厳しく、今後の給水人口減少や水需要の変化、施設や管路の老朽化など課題は山積しています。

このような中、平成29年度にアセットマネジメント、平成30年度には阿智村水道事業経営戦略を策定（令和6年度見直し）し、中長期的な視点に基づいた水道事業の持続や更新計画に沿った施設・管路更新を行います。

今後も、安心・安全な供給のために、施設・管路の老朽化及び更新内容や料金改定の必要性・今後の水道事業の展望を示すうえで、住民との合意形成を図りながら、水道事業の基盤強化を目指し、持続可能な事業運営を実施するように進めてまいりたいと思います。